

平成 30 年 7 月 豪雨に関する社会貢献委員会 活動概要

(平成 30 年 10 月 30 日 現在)

2018.6.28-7.08 豪雨災害

災害時対応フローに基づき、今後の活動概要の確認

7.24 激甚災害指定（閣議決定）

7.25 7 地区の地区長に対し、メールにて被災状況調査を開始（対象：7 地区 156 会員校）

9.09 7 地区すべての地区長からの返信を受ける

156 会員校のうち 98 校の状況が確認できた（返信率 62.8%）。

【地区別返信状況】	北海道・東北地区	19 校中 19 校（100%）
	関東甲信越地区	25 校中 5 校（20.0%）
	東京地区	17 校中 8 校（47.1%）
	中部地区	17 校中 9 校（52.9%）
	近畿地区	35 校中 35 校（100%）
	中国・四国地区	17 校中 7 校（41.2%）
	九州・沖縄地区	26 校中 15 校（57.7%）

10.30 学生または家族が被災した者が在籍している会員校および実習先変更調整等を要した会員校に対し、その後の状況確認（対象 2 校）

<結果の概要>

156 会員校のうち 98 校より回答あり。その中で被災に関するトピックがあった会員校は 2 校であった。

対 応：後日、お見舞いのメールを送信したが、支援のニーズはなかった。

1. 被災に関するトピックがあった会員校とその内容

98 校のうち被災に関するトピックがあった会員校は 2 校であり、その主な内容を以下に示す。

1) 学生または家族が被災した者が在籍している会員校：1 校

内 容：学生 1 名の実家（熊本県）が床下浸水。本人は他県におり通学等支障なし。

2) 実習や講義について調整が必要となった会員校：1 校

内 容：市町村での実習受け入れ中止に伴う実習先変更調整と文部科学省に届け出等の対応

3) 支援要請について回答があった会員校：1 校（上記 2）と同一校）

内 容：学生のボランティア活動に必要な物品（可能であれば）

2. 会員校からの意見

98 校のうち 18 校より記載あり。その主な内容は以下の通りである。

1) 被災時の学生の状況や教員の対応に関する意見

・今回の豪雨で学生・教員の自宅の被害などはありませんでしたが、このような状況になるとは予測がつかず、結果的にはもう少しはやく実習を中止し、交通機関が動いている間に学生を帰宅させるようにした方がよかったと個人的には反省しております。私の住んでいる地域も冠水がひどく、帰宅をあきらめ大学に宿泊し、学生の帰宅状況を確認しておりました。

- ・学部生は被災者もあり、大変でしたが幸いにも助産学コースの学生や教員には被災した者はおらず、学習環境にも特段の影響はなく、助産学コース M2 の学生の授業実習すべてを終了し、あとは研究に向けて頑張っております。
- ・助産学実習に関しては、A 県で行っていることもあり問題なかった。しかし先の大雨により B 市では 15 年ぶりに C 川の水門が閉鎖され他の分野で「警報は出ていないが、川の水量が増え恐怖感を覚える。実習に向かうことが不安である。」という学生からの訴えがあり、実習時間や方法が考慮された。特に助産学実習では、学生は無理をしがちであり、学生に対して、安全を最優先に現場に応じた自主的で早期の対応をとるような働きかけが肝要かと考えられる。

2) 想定される具体的な支援内容（義援金、講師派遣、テキストや演習物品の寄付、学生のボランティア活動に必要な物品提供等）に関する意見

- ・災害に遭った時の、実習先の支援や、テキスト等の支援
- ・多大なる被害に見舞われている地域の方々に何か出来ることは・・・と考えております。義援金等の形で支援させて頂けるのであればお力になりたく存じます。
- ・被災地区の学校に何らかの協力ができたらよいと思います。（例えば人（教員）の派遣とか、演習物品の寄付とか）
- ・災害の影響で講義などでお困りの教育機関に講師派遣などの支援をする。
- ・学業継続上、不足した物品などの供与、募金活動等
- ・災害地域への助産師教員の派遣、ボランティア活動、コーディネーター等
- ・学生のボランティアなどに必要な物品などがいただけるとありがたいです。

3) 会員校同士の支援・協力が必要な際の情報提供やコーディネートを求める意見

- ・助産教育上の支援の必要性や震災後の課題などの情報提供をしていただければ、会員校同士でのサポートにつながるかと思います。
- ・被災地域からの協力要請の情報があれば、流していただくのも良いかと考えます。
- ・地区内の情報共有や、サポート先の提示（web は使いにくいと思うので、かわる何か・・・）
- ・全助協が被害状況を確認して、相互に協力できたらいいですね。もし被災県になったら、本当に困ると思っています。
- ・個人で何かするのは躊躇してしましますが、全助協が取りまとめ（音頭取り）をしていただければ、一歩踏み出す勇気が持てそうです。
- ・状況を把握し、協力すべきことを明らかにして行動すること。
- ・この調査で新たな情報等が分かりましたらお知らせください。
- ・この調査を通して被災のあった会員校の状況に応じた支援をよろしく願っています。